

平成 27 年 4 月 14 日

記者発表

スターチス県オリジナル品種「紀州ファインシリーズ」 に新たな 3 品種が登場

本県のスターチスは、出荷量、栽培面積ともに日本一を誇る重要品目です。農業試験場暖地園芸センターでは、これまでに紫色の「紀州ファインバイオレット」等 7 品種を育成してきましたが、今回は、**県オリジナル品種としては初となるピンク色の「紀州ファインピンク」**をはじめ、**青色でボリュームのある「紀州ファインブルー」**、**紫色で生産性が高い「紀州ファインパープル」**の 3 品種を育成しました。

現在、新品種として登録出願中です。今後、県と契約した民間種苗会社において苗生産が行われ、スターチス生産者に活用される予定です。

○新品種の特性

名称	花色	特徴
紀州ファインピンク	ピンク色	切り花が長い、花房数が多い、作業性がよい
紀州ファインブルー	青色	ボリュームがある 、切り花が長い、花房数が多い
紀州ファインパープル	紫色	生産性が高い 、花房数が多い、作業性がよい

○県オリジナル品種のメリット

民間育成品種と比較すると、生産者は低価格で苗を購入できる

○今後の予定

品種登録出願申請 → 品種登録出願公表 → 品種登録
平成 27 年 3 月（出願済み） 平成 27 年 7 月（見込み） 平成 29 年 3 月（見込み）

出願公表後、種苗会社と契約 → 平成 28 年秋頃、生産者から初出荷予定

○関連する事業名

農林水産業競争力アップ技術開発事業

研究テーマ「スターチスの新品種育成」（平成 24～26 年度）

お問い合わせ先

農業試験場暖地園芸センター 小川・上山（電話 0738-23-4005）

研究推進室 岩本（電話 073-441-2995）

品種開発の背景

出荷量 6,040万本（全国第1位）

栽培面積 68.6 ha（全国第1位）

スターチスは県内花き産出額1位の重要品目

課題

民間育成品種は種苗費が高い



県オリジナル品種を育成して種苗費低減

県オリジナルの利点

- 幼苗（ビトロ苗、プラグ苗）の自家育苗でコストダウンが可能



ビトロ苗



プラグ苗

これまでに
7品種を育成！

県オリジナル品種とスターチスの花色割合

県オリジナル品種には
ピンク系品種がなかった

オリジナル品種普及状況
5ha（15万株）
※県全体の7.2%（平成25年度）

オリジナル品種

紀州ファインイエロー（H20.3.17）
紀州ファインパール（H22.3.18）
紀州ファインホワイト（H20.3.17）
※括弧内は各品種の登録日



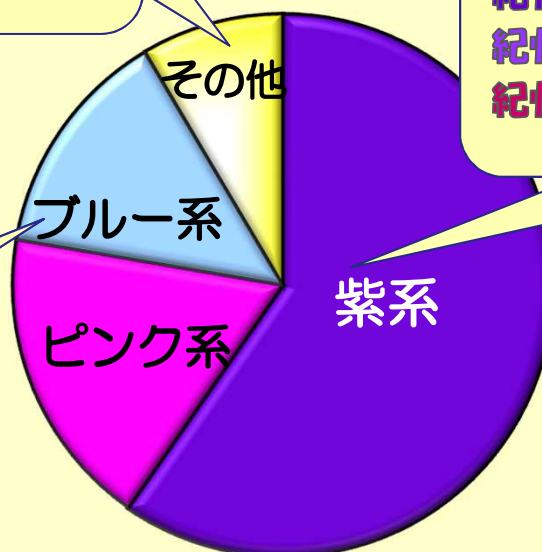
オリジナル品種

紀州ファインラベンダー
出願公表：H25.7.5



オリジナル品種

紀州ファインバイオレット（H24.4.4）
紀州ファイングレープ（H24.4.4）
紀州ファインルビー（H22.3.18）
※括弧内は各品種の登録日



スターチスの花色割合
（JA種苗購入による参考数値）